

広域IP網を対象とした新たな全銀協標準通信プロトコルについて

全銀協標準通信プロトコル(TCP/IP手順・広域IP網)



一般社団法人
全国銀行協会

1. 全銀協標準通信プロトコルの利用状況等

- 全銀協標準通信プロトコルは、企業・銀行相互間のオンラインデータ交換における通信手順であり、昭和58年に制定したベーシック手順と平成9年に制定したTCP/IP手順の2種類がある（以下、両手順を「従来の全銀プロトコル」という。）。
- 従来の全銀プロトコルは公衆回線およびISDNを適用回線とし、EB・FBサービス等の通信手順として使用されている。
- 他方、EB・FBサービスにとどまらず、従来の全銀プロトコルに準拠したソフトウェアは、EDI取引をはじめ、さまざまな業界で利用されている。

2. 全銀協標準通信プロトコル（TCP/IP手順・広域IP網）の検討契機

全銀協標準通信プロトコル（TCP/IP手順・広域IP網）は、東日本電信電話株式会社および西日本電信電話株式会社から、平成28年9月にISDNを含むPSTN（公衆回線網）からIP網への移行について検討を進めていることが、また、同年10月に両社のISDNサービスである「INSネット デジタル通信モード」の提供終了について具体的な検討を開始することが、それぞれ公表され、広域IP網をベースとした新たなプロトコルを策定する必要性が生じたことから、検討を開始した。

3. 全銀協標準通信プロトコル（TCP/IP手順・広域IP網）のポイント

利用者がISDNを含むPSTN提供終了までの期間に広域IP網に移行でき、かつ、その際のコスト等の負担を極力低減することを念頭に置き、検討を行った。

検討結果を踏まえた全銀協標準通信プロトコル（TCP/IP手順・広域IP網）のポイントは次のとおり。

- 適用回線は、「パケット通信（IPを利用する回線）」を前提とした。

〔回線例〕① インターネット（IPv4/IPv6）

② IP-VPN等の通信事業者が提供するIPが利用できる回線サービス

- 従来の全銀プロトコルの利用業務に可能な限り影響を与えないよう、従来の全銀プロトコルが規定する電文シーケンスや電文制御手順を踏襲した。

- 新たに「暗号化接続仕様」を設け、広域IP網においてデータ交換を行う場合の盗聴、改ざん等に対するセキュリティ対策を例示した。

これは、利用者各々の利用用途によってセキュリティに対する要求水準が異なることから、同仕様においては、当事者間あるいは個々の業界において、利用用途に応じたセキュリティ対策を検討のうえ、その検討結果にもとづいた実装あるいは運用等を選択できる内容としたものである。

⇒ 全銀協標準通信プロトコル（TCP/IP手順・広域IP網）の検討に当たっては、技術的な知見を得るため、ソフトウェア開発・システム開発を行う企業からも意見を聴取。

4. 全銀協標準通信プロトコル（TCP/IP手順・広域IP網）の公表

- 5月15日（月）に制定
- 全銀協ウェブサイトにおいて、PDF形式で掲載（無償ダウンロード）

URL: <https://www.zenginkyo.or.jp/>



一般社団法人
全国銀行協会